

「協働的な学習」の充実

―わかる喜びが実感できる授業―

港校
築中
学

AIに代表されるこれからの社会では、必要とされる知識や技能が大きく変わろうとしている。急激に変化する時代を生き抜いていくためには、基礎的な知識や技能だけでなく、「コミュニケーション能力」「批判的思考力」「創造力」「コラボレーション能力」「ICT活用能力」など、「21世紀型スキル」と呼ばれる資質や能力が必要である。学校教育が求められるのは、これからの時代を「生きる力」と時代の「変化に対応できる力」である。このスキルを育てるために「協働的な学習」

「まなボード」で教え合う生徒たち



の一層の充実が必要不可欠だと考えている。築港中学校では、「わかる喜び、できる楽しさを実感できる授業」を目指し、ICT機器の効果的な活用により、生徒の学ぶ意欲やプレゼンテーション力の向上を図り、グループワークやディスカッションを取り入れた授業改善にも力を入れている。複数の教員がいる教科の授業は学級を単純に2分割し、少人数授業を進めている。その中で、『みんなの学習クラブ（プリント作成システム）』（日本コスモトピア）を活用することで、一斉画一的な授業から脱却し、生徒が自学自習できる力の育成に取り組んでいる。授業での活用だけでなく、不登校や特別支援学級在籍生徒、さまざまな家庭環境の生徒に対して、学習機会の保障、学力向上のツールとしても活用

している。ICT機器を効果的に活用した授業の工夫・改善に取り組むと同時に、書いて考える学習も重要と考え、各教室にプリンターを設置し、生徒が休み時間など、いつでも自由に使える環境を整えている。授業でタブレットを活用する際は、学級が2分割されているので、一人で1台使える。1・2年生の数学の授業では、前半の一斉形式の授業後、班で『みんなの学習クラブ』から出力した演習プリント（iプリ）と「まなボード」を活用して、生徒同士で教え合いながら学習を進めている。教員は数学が苦手な生徒への支援に回っている。プリントが終わった班からタブレットに解答を表示させ、答え合わせをする。その後、定着・標準・発展の中から各自が次のプリントを印刷し、それぞれ自分のペースで

学習を進めていく。3年生の数学の授業は、3段階の習熟度別に班を分けて、Aグループは教員と、Bグループはiプリを中心に、Cグループは入試問題などの難しい問題にチャレンジしている。英語は授業の後半、演習プリントが早く終わった生徒から、プリントを自分で印刷して答え合わせまで行う。理解の差が大きいくラスの中で、ほとんど学習したい生徒が主体的に学習を進めることができる。

授業中に完結できなかった生徒、不登校や特別支援学級生徒、さまざまな家庭環境にある生徒は、家庭でもコンピュータとインターネット環境があれば『みんなの学習クラブ』が利用できる。自分のペースで、以前に学習した単元（小学校で学習した内容）までさかのぼって、解説動画を何回も見ながら学習を進めることができる。紹介のできなかった他の教科でも、『みんなの学習クラブ』の活用を積極的に進めている。

（築港中学校長 西本晃）

タブレットで答え合わせをする生徒

